

# 第203回 中小企業の景気動向調査

調査時点	2025年2月下旬～3月上旬
調査対象期間	2025年1月～2月実績・3月予想値 2025年4月～6月見通し
調査対象企業	当金庫お取引先1,603社(大阪府内ならびに尼崎市)
回答企業数	663社
回答率	41.3%
調査方法	調査票郵送による回答、インターネットによる回答
分析方法	DI(Diffusion Index)を中心に分析 DIとは、売上、収益、価格、数量について、「増加」(上昇)と回答した企業割合から「減少」(低下)と答えた企業割合を差し引いた値 〔例:売上DIの場合〕 売上が「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いて求めます。

売上が「増加」した企業 45%	「変わらず」 20%	売上が「減少」した企業 35%
--------------------	---------------	--------------------

45% - 35% = 10 ← 売上DI

## アンケート回答企業の内訳

業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4	32	32	25	4	30	19	4	40	186	28.1%	28.1%
5～10	63	25	13	4	45	17	6	26	199	30.0%	58.1%
11～20	50	12	4	5	24	11	7	5	118	17.8%	75.9%
21～30	19	6	0	3	8	6	8	4	54	8.1%	84.0%
31～50	15	5	2	2	4	7	3	0	38	5.7%	89.7%
51～100	17	5	3	2	3	7	8	2	47	7.1%	96.8%
101～	8	2	1	0	3	4	2	1	21	3.2%	100.0%
従業員数不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	100.0%
計	204	87	48	20	117	71	38	78	663	100.0%	
構成比	30.8%	13.1%	7.2%	3.0%	17.6%	10.7%	5.7%	11.8%	100.0%		

売上D Iは-3.0（前回比△5.5ポイント）、収益D Iは-9.4（前回比△1.1ポイント）となり、前回調査時の1-3月期の見通しと比べ、売上D Iは3.9ポイント、収益D Iは5.3ポイントそれぞれ上振れました。

売上D Iは、製造業が-11.3（前回比△3.7ポイント）、卸売業が-1.2（前回比△2.6ポイント）、小売業が-6.2（前回比△13.8ポイント）、飲食業が5.0（前回比△26.1ポイント）、サービス業が7.1（前回比△6.8ポイント）、運輸業が18.3（前回比△28.2ポイント）、不動産業が-5.2（前回比△6.9ポイント）となり、建設業を除く全ての業種で前回比マイナスとなりました。年末商戦の反動などがあるものの、業況の回復に決め手に欠ける状況が続いています。

販売価格D Iは、18.4（前回比+1.7ポイント）、販売数量D Iは-7.2（前回比+0.7ポイント）となりました。

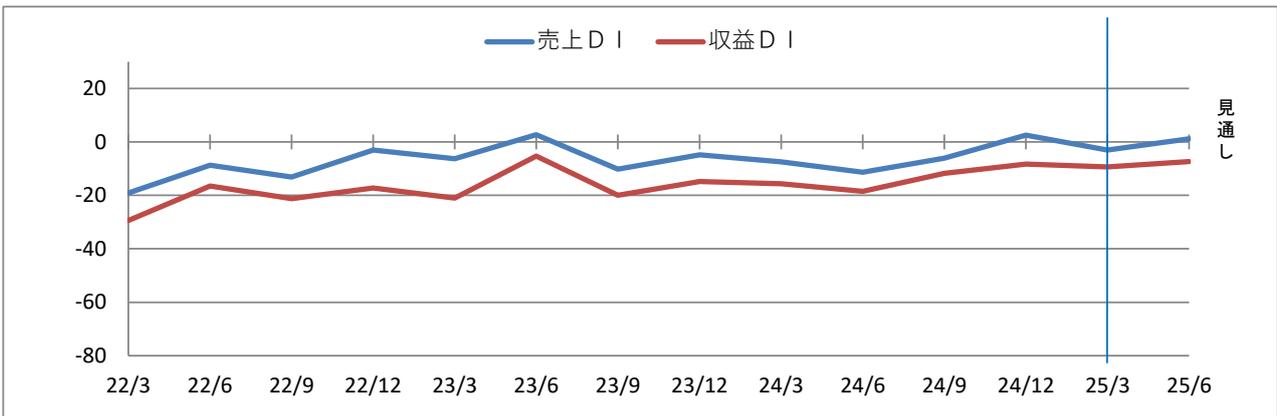
2025年4-6月期は、売上D Iが4.2ポイント、収益D Iが2.1ポイント、販売価格D Iが4.0ポイント、販売数量D Iが2.4ポイントそれぞれ上昇すると予測しています。消費者の節約志向があるものの、賃上げによるマインドの回復に期待しているものと思われまます。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が71.3%（前回比△1.9ポイント）、「一般経費増大」が49.0%（前回比+1.6ポイント）、「売上停滞減少」が44.2%（前回比△7.0ポイント）、「人手不足」が41.3%（前回比+3.3ポイント）となりました。特に、サービス業や飲食業で人手不足感が強まっています。

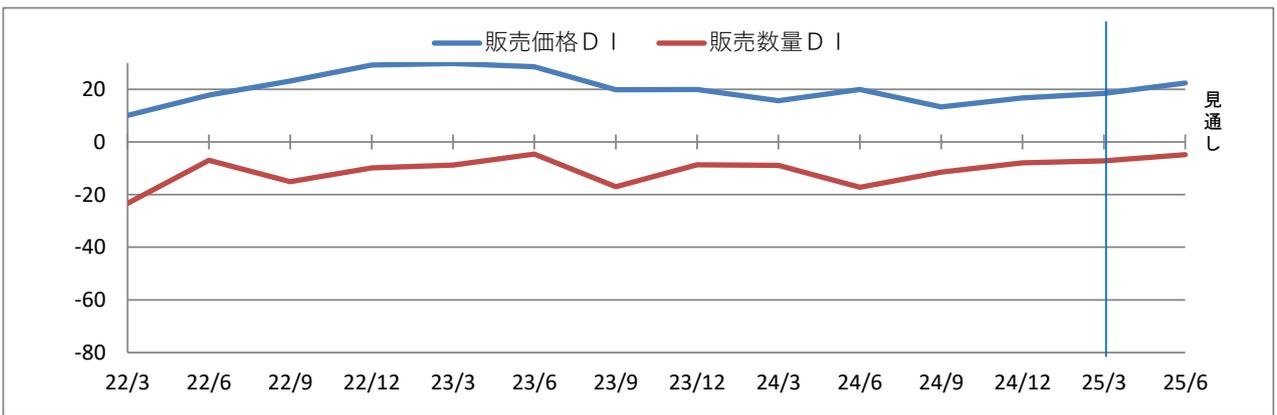
設備投資は「実施中」18.3%（前回比+4.9ポイント）、「予定あり」13.0%（前回比+2.4ポイント）の合計31.3%となり、全ての業種で前回調査から回復しました。

売上D I・収益D Iの推移

n= 663

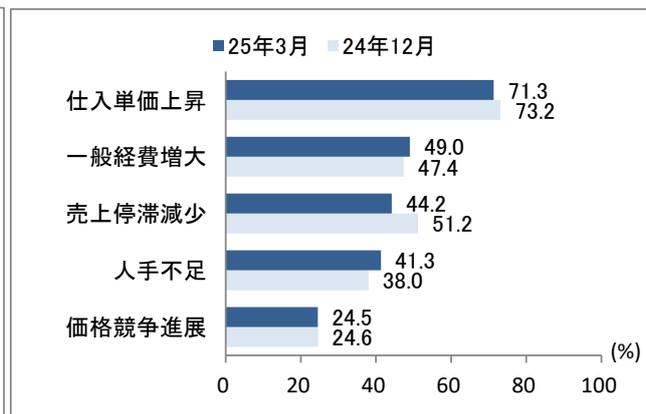
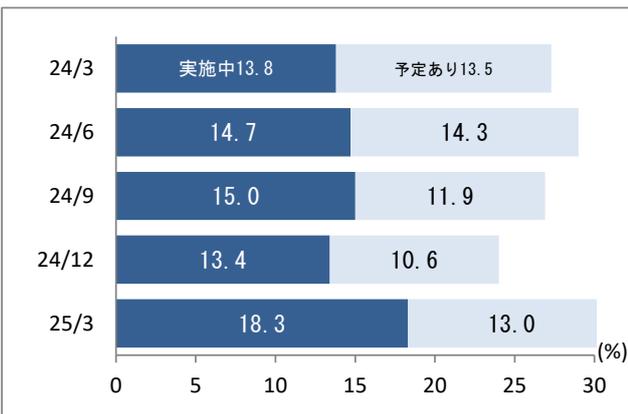


販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向

経営上の問題点



売上D Iは-11.3（前回比△3.7ポイント）、収益D Iは-19.1（前回比+0.4ポイント）となり、前回調査時の1-3月期の見通しと比べ、売上D Iは5.1ポイント、収益D Iは3.2ポイントそれぞれ上振れました。

2025年4-6月期は、売上D Iが2.9ポイント、収益D Iが3.4ポイントそれぞれ上昇し、販売価格D Iが6.4ポイント、販売数量D Iが1.6ポイントそれぞれ上昇すると見込んでいます。

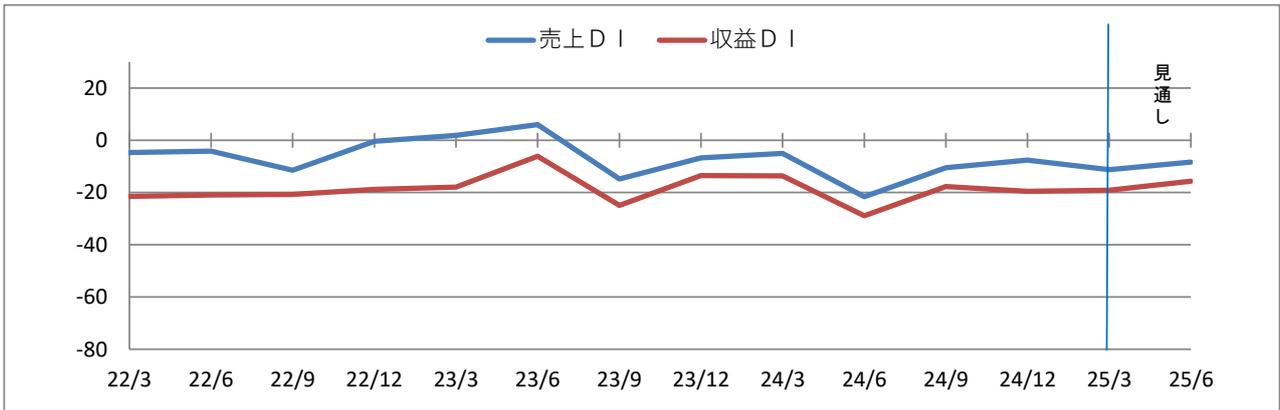
企業からは、「金型製造では売上高が安定しないので安定収入の柱作りが課題です」、「輸入製品や認定商品の増加など、新商品への参入が厳しい状況に有る。大阪万博や鉄道新設などに需要を期待しているが、さほど影響を感じる事は無い」との声が聞かれました。業況の回復力は弱い中、様々な課題への対応に迫られています。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が79.6%（前回比△2.6ポイント）、「売上停滞減少」が56.7%（前回比△8.8ポイント）、「一般経費増大」が49.8%（前回比+0.6ポイント）、「人手不足」が35.3%（前回比△0.7ポイント）となり、電気代などエネルギー価格の上昇が収益の確保に悪影響を及ぼしています。4月以降は政府の補助がなくなるため、より深刻化することが予想されます。

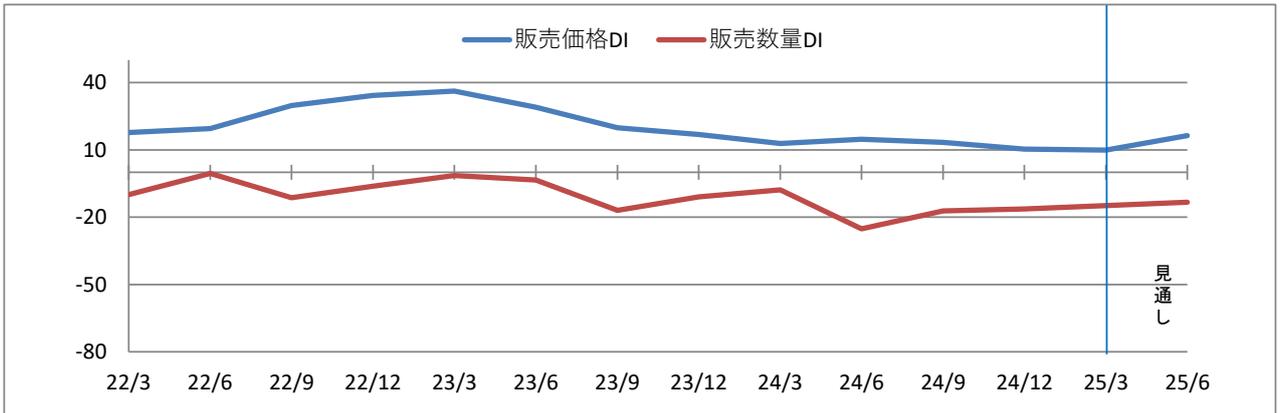
設備投資は「実施中」が17.3%（前回比+2.5ポイント）、「予定あり」が14.4%（前回比+3.7ポイント）で合計31.7%となり、前回調査から設備投資意欲は上昇しました。

売上D I・収益D Iの推移

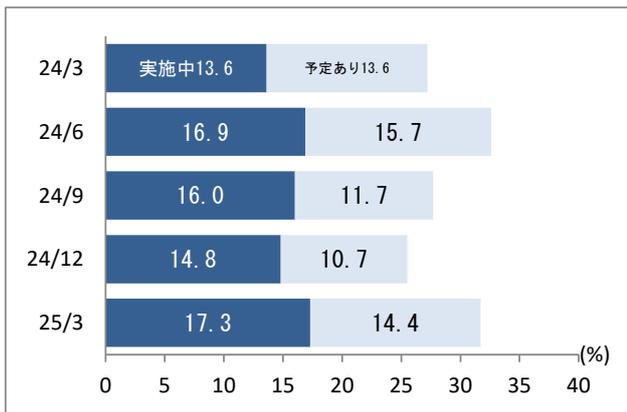
n= 204



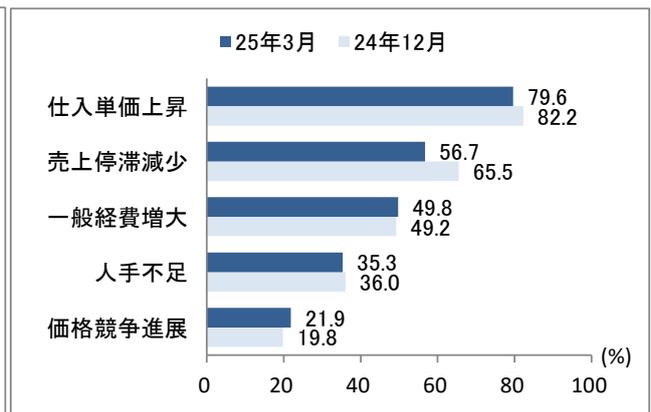
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



売上D Iは-1.2（前回比△2.6ポイント）、収益D Iは-7.0（前回比△7.0ポイント）となり、前回調査時の1-3月期の見通しと比べ、売上D Iは11.8ポイント、収益D Iは9.1ポイントそれぞれ上振れしています。

企業からは、「物価高が厳しいので、早く収まってほしい。新しい事業展開をしなければ、未来がない」、「人手不足による工事の延期、配達の遅れなど、多くの課題をかかえる中で、2月は大雪による交通障害が発生し、出荷停止に追い込まれました。相変わらずの円安も続き、顧客の要求を守る難しさを実感しています。」との声が聞かれ、長期化する物価高や異常気象による影響を受ける企業が出てきています。

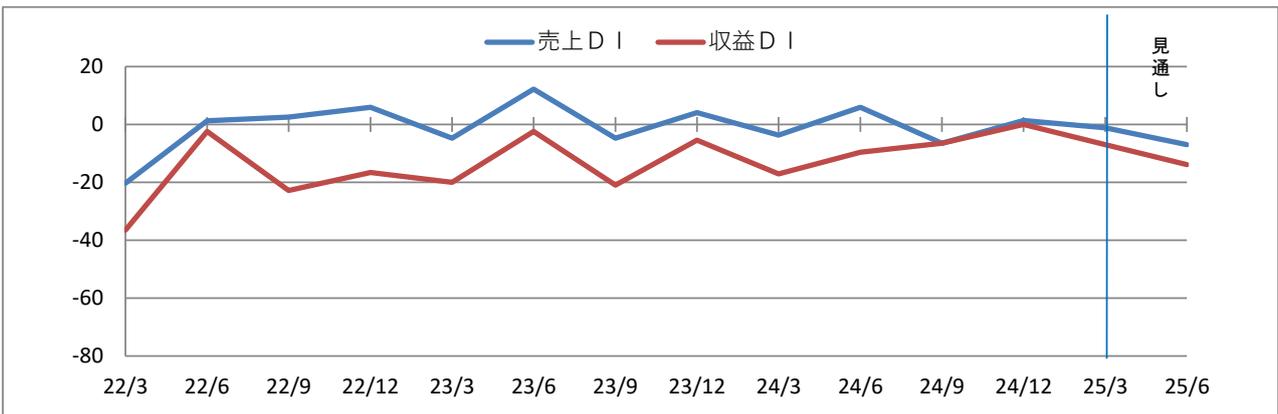
2025年4-6月期は、売上D Iが5.8ポイント、収益D Iが6.9ポイントそれぞれ下落し、販売価格D Iが2.0ポイント上昇し、販売数量D Iが11.5ポイント下落すると見込んでいます。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が70.9%（前回比△8.8ポイント）、「売上停滞減少」が58.1%（前回比+3.0ポイント）、「一般経費増大」が39.5%（前回比△4.0ポイント）となり、安定した売上の確保に課題を抱えています。

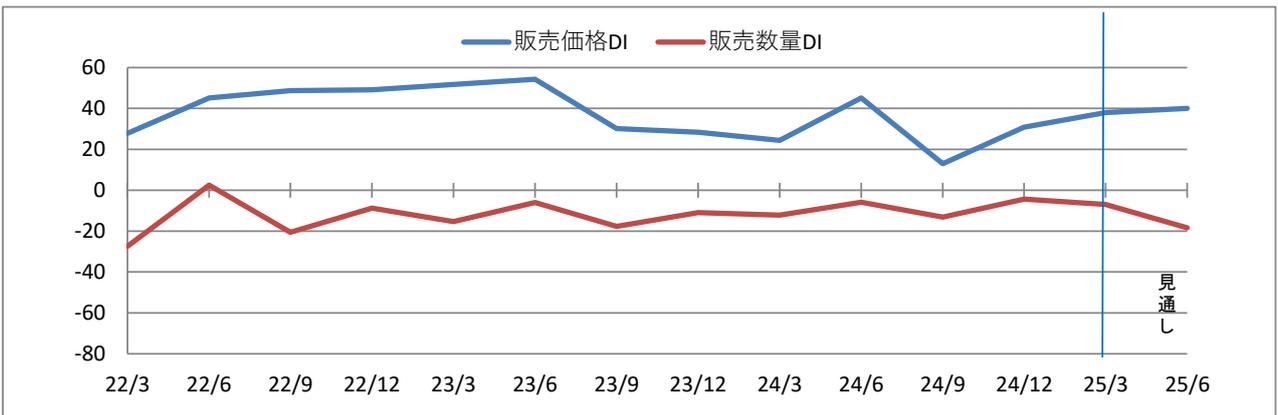
設備投資は「実施中」が11.6%（前回比+1.3ポイント）、「予定あり」が16.3%（前回比+10.4ポイント）で合計27.9%となり、設備投資意欲は前回から回復しました。

売上D I・収益D Iの推移

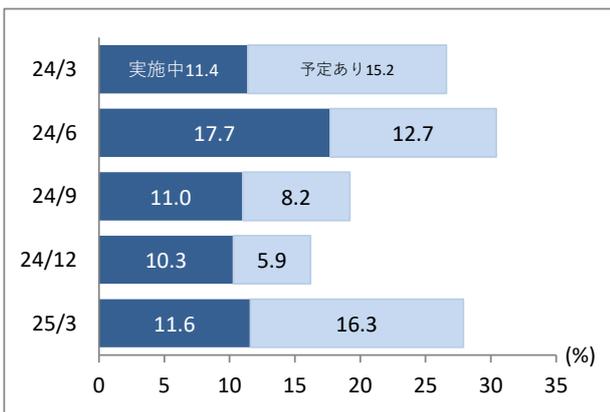
n = 87



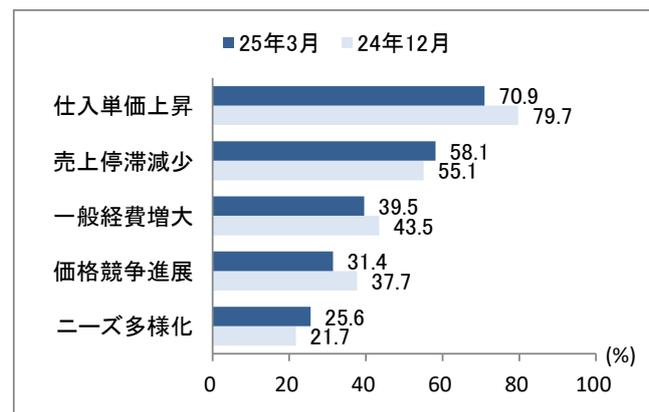
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



# 小売業

## 賃上げによる消費マインド回復に期待

売上D Iは-6.2（前回比△13.8ポイント）、収益D Iは-16.7（前回比△7.3ポイント）となり、前回調査時の1-3月期の見通しと比べ、売上D Iは2.4ポイント下振れし、収益D Iは10.3ポイント上振れました。

販売価格D Iは14.9（前回比△9.6ポイント）、販売数量D Iは-2.1（前回比+7.3ポイント）となり、販売価格の上昇にはブレーキがかかりました。

企業からは「近くに介護ホームが多くなり、商店街に人通りが少なくなっている」など、介護施設の増加が商店街の売上へ影響を与えているケースも出てきています。

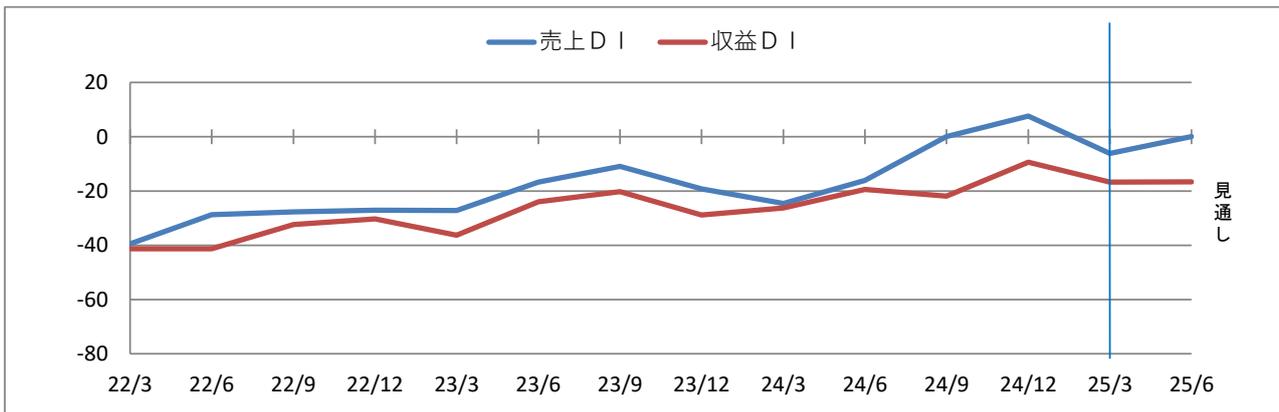
2025年4-6月期は、売上D Iが6.2ポイント、収益D Iが0.1ポイントそれぞれ上昇し、販売価格D Iは4.3ポイント、販売数量D Iは2.1ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。

経営上の問題点は、「仕入単価の上昇」が75.0%（前回比△12.3ポイント）、「一般経費増大」が45.8%（+0.7ポイント）、「売上停滞減少」が37.5%（前回比△19.4ポイント）、「人手不足」が37.5%（前回比+21.8ポイント）となり、人手不足感が急速に上昇しています。

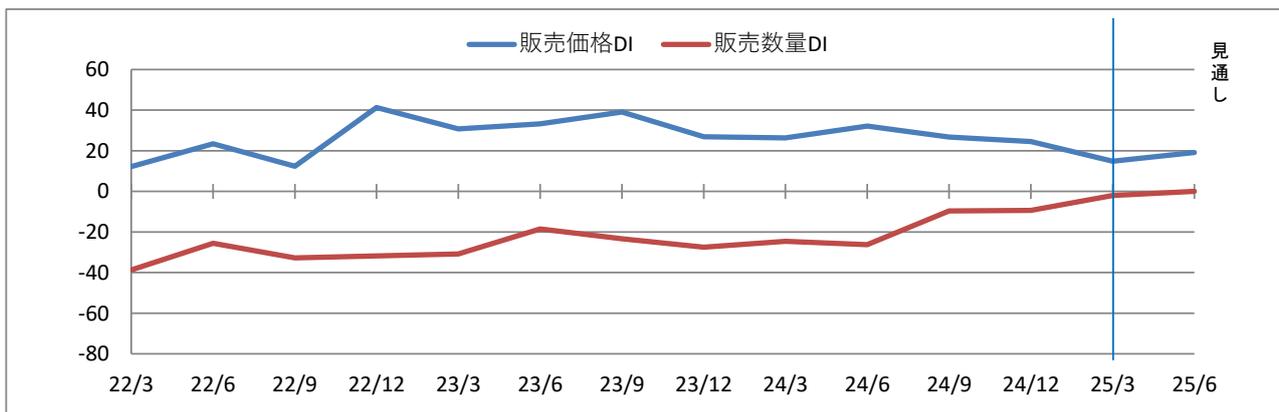
設備投資は「実施中」15.2%（前回比+9.4ポイント）、「予定あり」が8.7%（前回比+1.0ポイント）で合計23.9%となり、設備投資意欲は前回から大きく上昇しました。

売上D I・収益D Iの推移

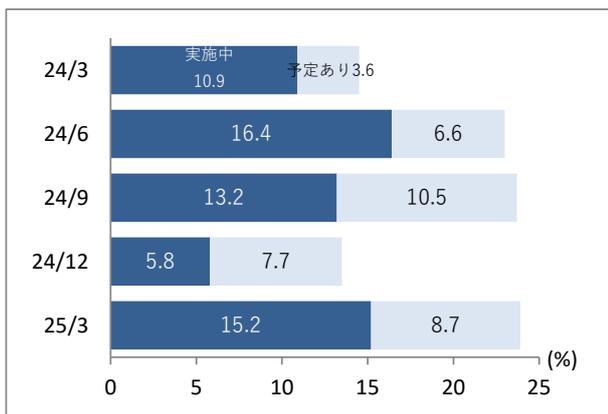
n = 48



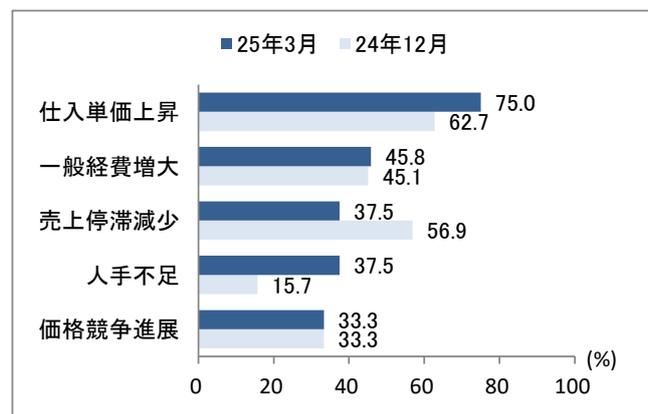
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



# 飲食業

## 地域格差大 繁華街飲食店好調

売上D Iは5.0（前回比△26.1ポイント）、収益D Iは5.0（前回比+17.5ポイント）と、前回調査時の1-3月期の見通しと比べ、売上D Iは17.5ポイント、収益D Iは42.5ポイントそれぞれ上振れしています。

販売価格D Iは20.0（前回比△36.2ポイント）、販売数量D Iは-5.0（前回比△30.0ポイント）となりました。市内の飲食店では、欧州からの外国人を中心に来店客が増加し、コロナ前の賑わいが戻る店も出てきています。

2025年4-6月期は、売上D Iが20.0ポイント、収益D Iは5.0ポイントそれぞれ上昇し、販売価格D Iは5.0ポイント、販売数量D Iは25.0ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。

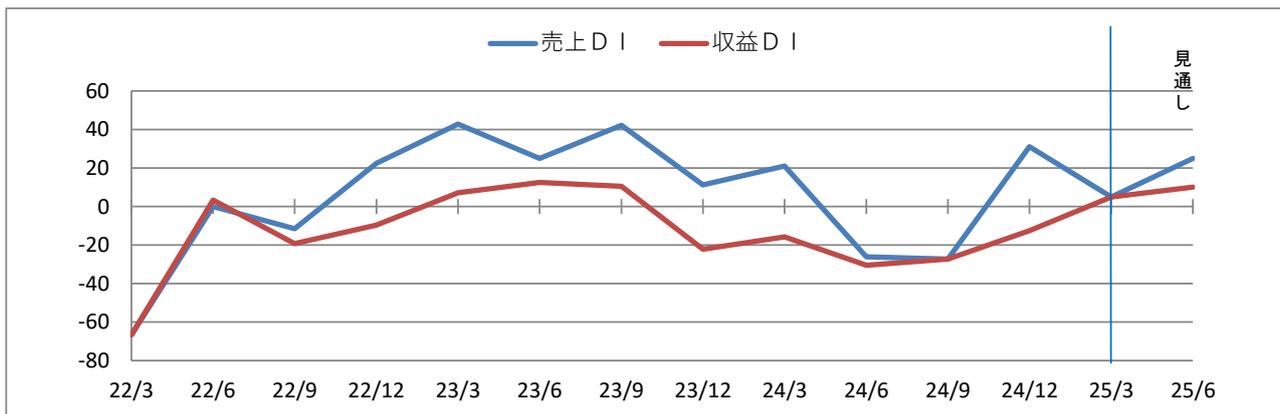
企業からは、「まずは人材確保を重視しながら、スキルアップ研修強化を図り、高齢化した社員を活かせる運営を目指して、10年後の人材確保を実施する」という、長期的な視点にたって人材確保に向けた戦略を考える声が聞かれました。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が95.0%（前回比+8.3ポイント）、「一般経費増大」が65.0%（前回比△8.3ポイント）、「人手不足」が65.0%（前回比+11.7ポイント）となり、米価や天候不順による食材価格の上昇や、人手不足感が強まり大きな経営課題となっています。

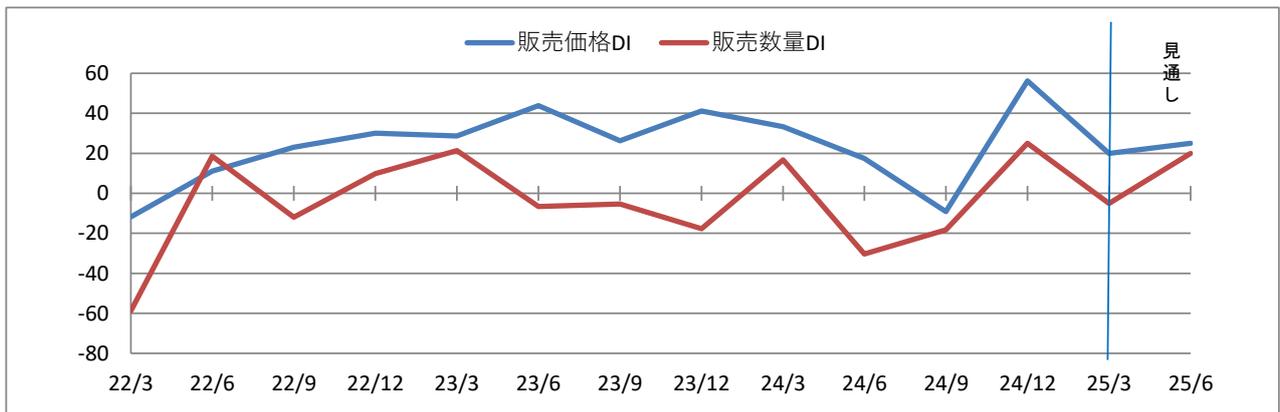
設備投資は「実施中」が10.0%（前回比△8.8ポイント）、「予定あり」が30.0%（前回比+5.0ポイント）で合計40.0%となり、息の長いインバウンド需要や賃上げによる消費マインドの回復に期待していると思われます。

売上D I・収益D Iの推移

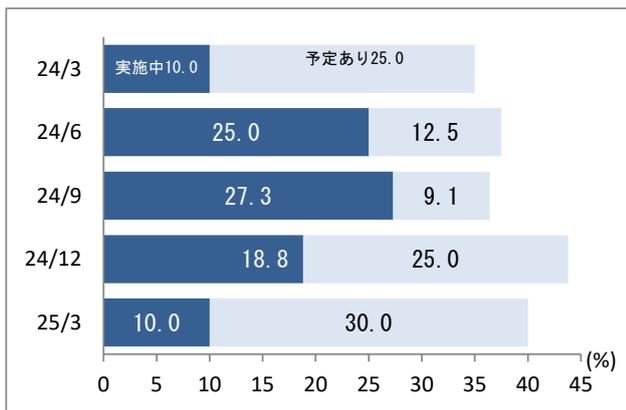
n= 20



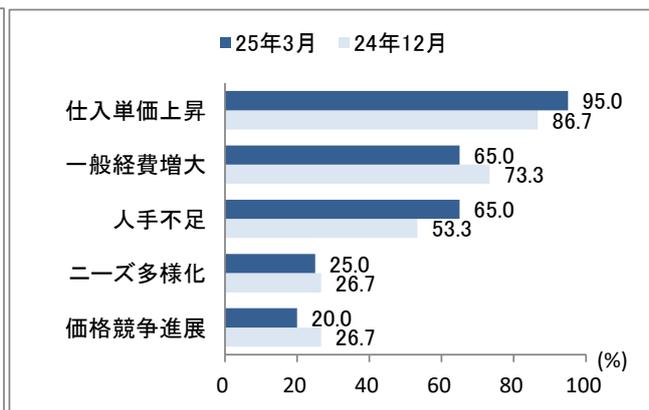
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



# 建設業

## 材料費上昇に追いつかない販売単価上昇

売上D Iは-1.7（前回比+1.5ポイント）、収益D Iは-7.8（前回比+7.2ポイント）となり、前回調査時の1-3月期の見通しと比べ、売上D Iが1.6ポイント、収益D Iが0.8ポイントそれぞれ上振れしています。

販売価格D Iは20.8（前回比+15.8ポイント）、販売数量D Iは-4.9（前回比+2.7ポイント）となり、販売価格の上昇が顕著となりました。しかし、企業からは「現在は材料費、経費の高騰が経営には響いてきますが全ての高騰分を吸収するほど下請け単価が上がっている訳ではありません。少しずつ単価は上がっていますが物価上昇の方が早い状態です」という声が聞かれ、材料費の上昇が早すぎて単価の上昇は追いつかない状況です。

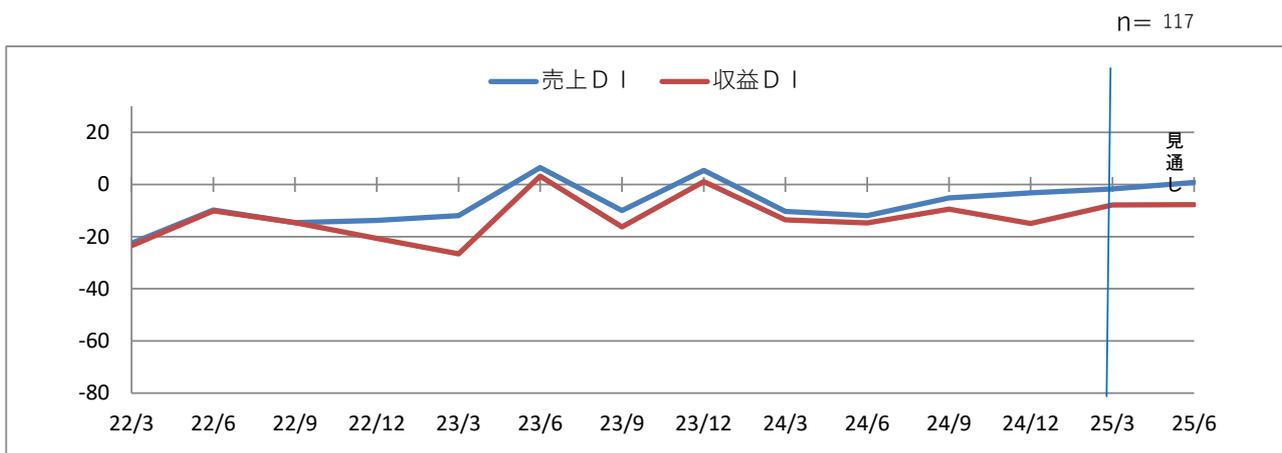
間近に迫った大阪関西万博開催に向け、多忙な企業も出てきています。

金利の先高観はありますが物件購入に踏み切る消費者もあり、売上の大きな増加はないものの、堅調な推移が続く企業が出てきています。

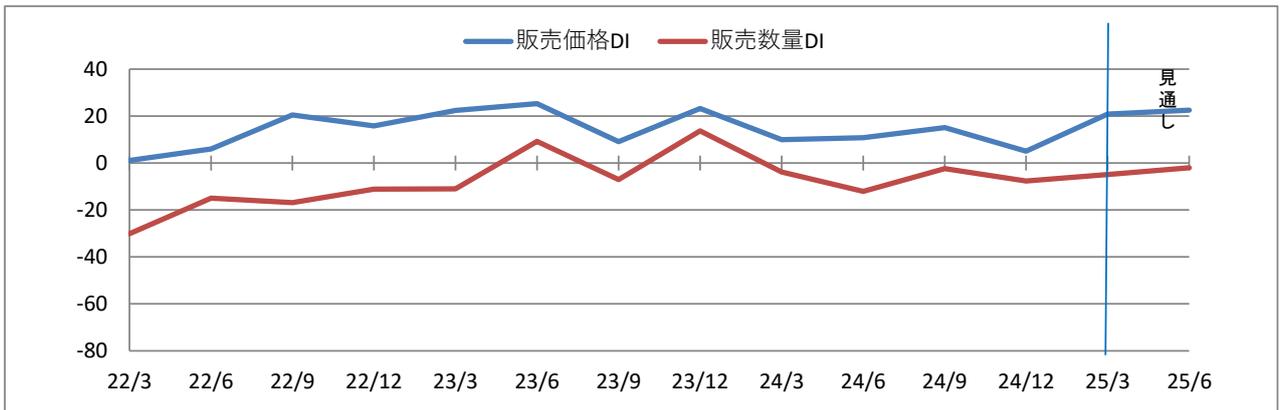
2025年4-6月期は、売上D Iが2.5ポイント、収益D Iが0.1ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が69.2%（前回比△4.7ポイント）、「人手不足」が59.0%（前回比△0.8ポイント）となりましたが、「売上停滞減少」や「一般経費増大」「競争激化」が前回調査から上昇し、多岐に亘る問題点への対応を迫られています。

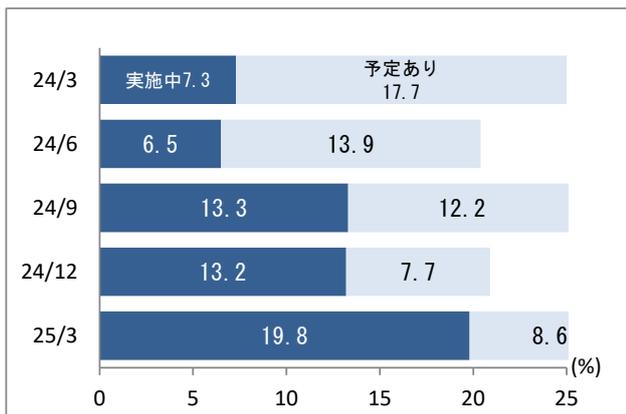
設備投資は「実施中」が19.8%（前回比+6.6ポイント）、「予定あり」が8.6%（前回比+0.9ポイント）で合計28.4%となり、前回調査から設備投資意欲は回復しています。



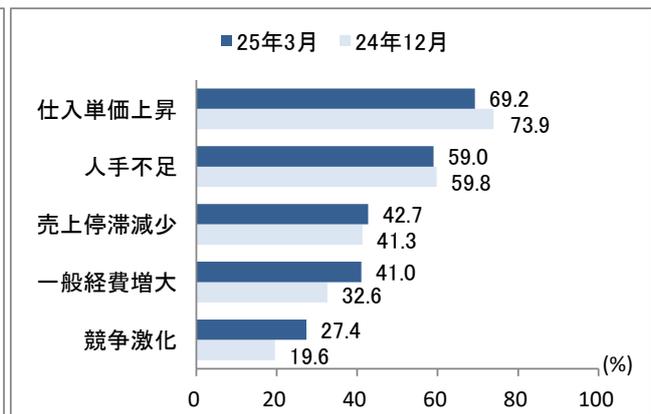
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



# サービス業

## 好調インバウンド 宿泊・民泊好調続く

売上D Iは7.1（前回比△6.8ポイント）、収益D Iは-1.4（前回比△7.7ポイント）となり、前回調査時の1-3月の見通しを売上D Iは14.8ポイント、収益D Iは19.6ポイントそれぞれ上振れしています。

販売価格D Iは15.7（前回比+4.8ポイント）、販売数量D Iは1.8（前回比△9.3ポイント）となり、価格の上昇が売上の増加に繋がっています。

インバウンド需要に支えられ宿泊業は好調が続いています。特に、西成区では民泊を利用する外国人が増加しています。大阪関西万博が開催直前であり、今後も顧客が増加することに期待しています。

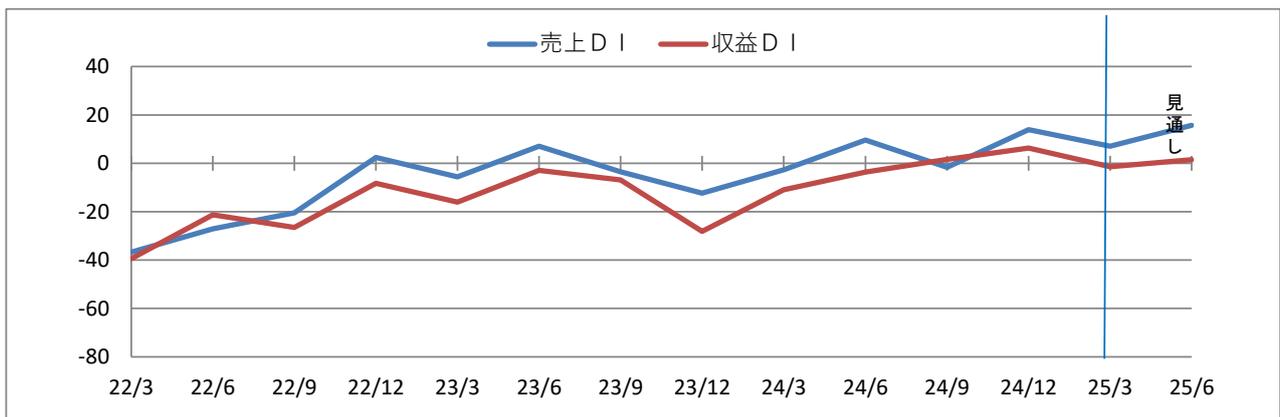
企業からは、「リース・修理・中古新車販売において、年々ベテラン社員が少なく、思い切った動きができず、新人教育に力をいれている。仕事内容は複雑で、しっかりした中堅社員がほしい」、「人材の確保、教育が課題になっているので、今後視野を広げ、様々な年代の雇用を考えている。」との声が聞かれ、人材確保に課題を抱える声が多くありました。

2025年4-6月期は、売上D Iが8.6ポイント、収益D Iは2.9ポイントそれぞれ上昇し、販売価格D Iが3.6ポイント、販売数量D Iが10.5ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。

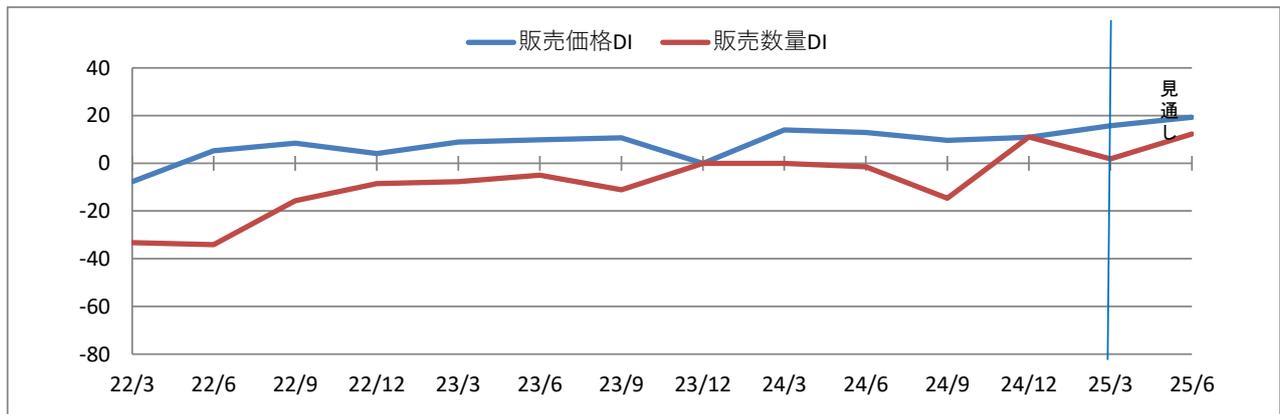
経営上の問題点は、「人手不足」が69.2%（前回比+16.0ポイント）「一般経費増大」が64.6%（前回比△4.8ポイント）、「仕入単価上昇」が38.5%（前回比△9.9ポイント）となりました。

設備投資は「実施中」が22.9%（前回比+13.7ポイント）、「予定あり」が12.9%（前回比△4.0ポイント）で合計35.8%となり、設備投資意欲は前回調査から回復しています。

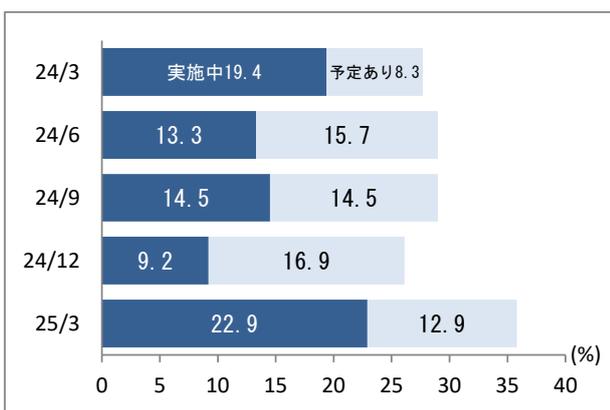
売上D I・収益D Iの推移



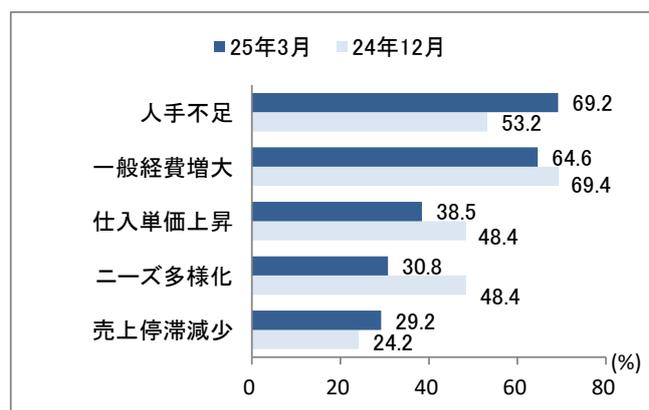
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点

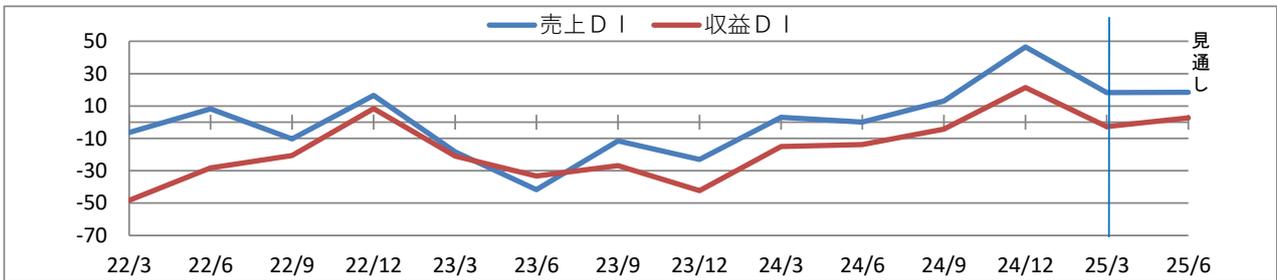


# 運輸業

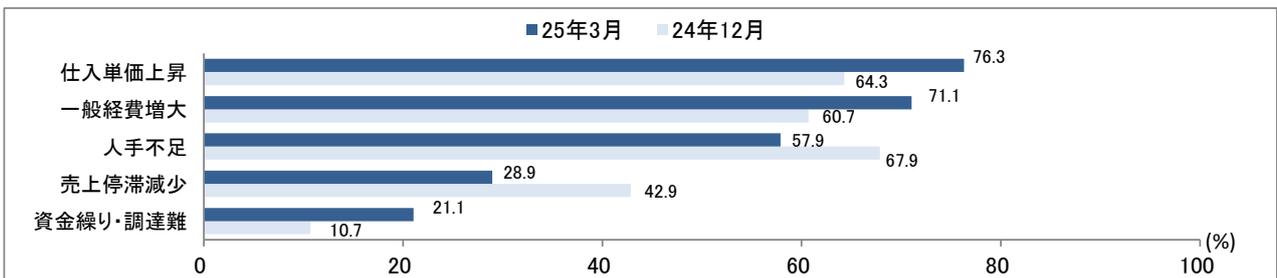
## ハードル高い車両入替 高騰する消耗品費

売上D Iは18.3（前回比△28.2ポイント）、収益D Iは-2.7（前回比△24.1ポイント）となりました。  
 前回調査時の1-3月の見通しから、売上D Iは4.1ポイント上振れし、収益D Iは13.4ポイント下振れし、2025年4-6月期は、売上D Iが0.1ポイント、収益D Iは5.3ポイントそれぞれ上昇すると予想しています。  
 企業からは、「運送業においては、車両代が130～140%上がっている。現状では車両の入れ替えが難しくなる。燃料代に加え、タイヤ代やオイル等の消耗品も高くなっている」との声が聞かれました。  
 経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が76.3%、「一般経費増大」が71.1%「人手不足」が57.9%となり消耗品の価格上昇が大きな経営課題として上昇しています。

売上D I・収益D Iの推移



経営上の問題点

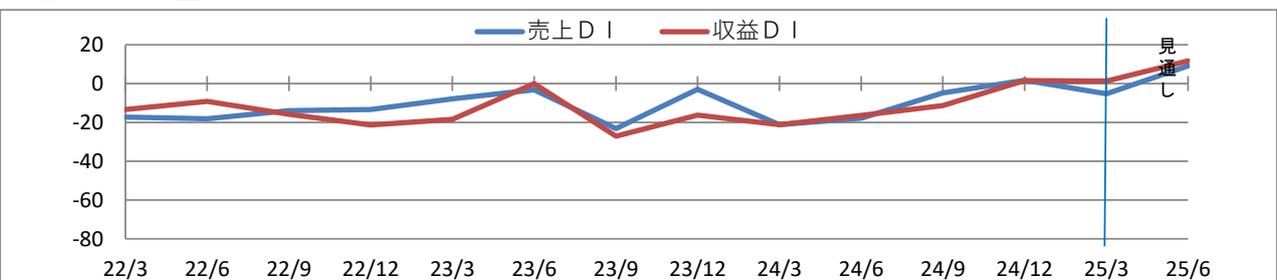


# 不動産業

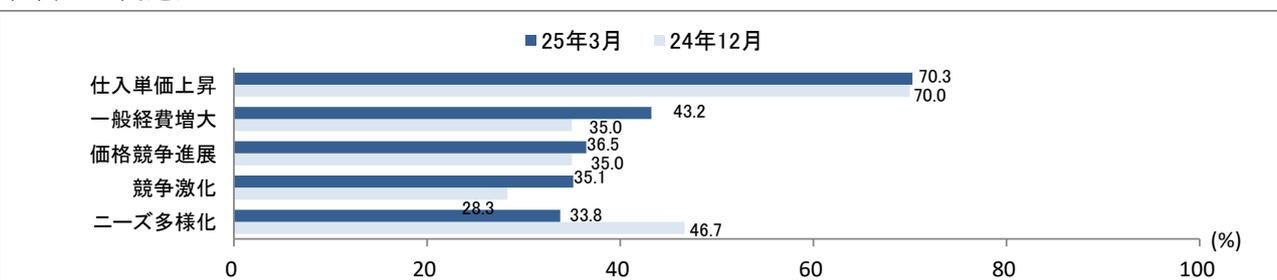
## 高値続く物件価格

売上D Iは-5.2（前回比△6.9ポイント）、収益D Iは1.3（前回比△0.3ポイント）とそれぞれ下落し、前回調査時の1-3月期の見通しから、売上D Iは19.9ポイント、収益D Iは11.8ポイントそれぞれ下振れました。  
 市内の繁華街では、中国人による現金での物件購入があり、物件価格は未だに高値が続いています。  
 経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が70.3%と最大の問題点ですが、「一般経費増大」や「競争激化」が急伸しており、多岐に亘る問題点への対応に迫られています。

売上D I・収益D Iの推移



経営上の問題点

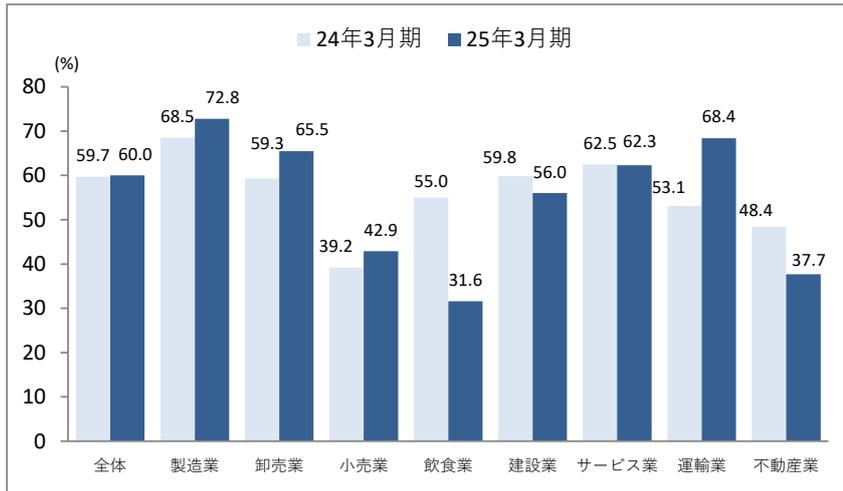


# 賃上げについて

## 6割賃上げ 昨年比+0.3ポイント

賃上げ実施予定企業の割合（業種別）

回答企業数：636社



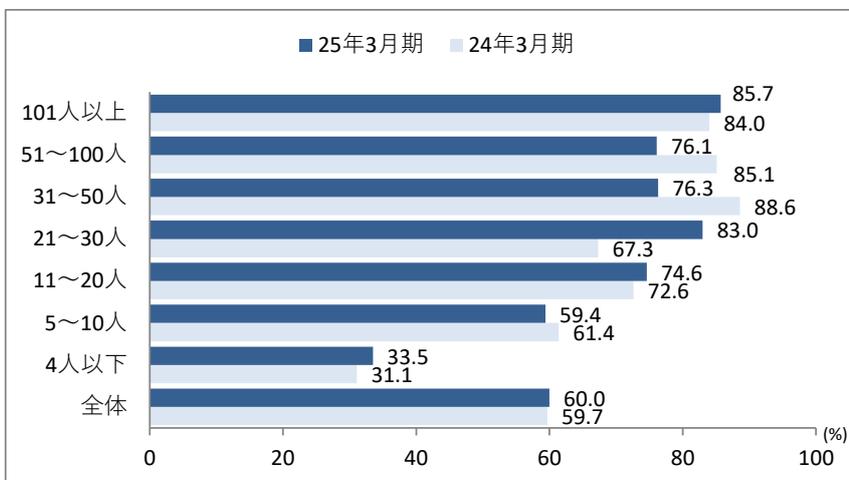
「実施予定」が60.0%となり、昨年と比べて0.3ポイント上昇しました。

特に、製造業や卸売業、小売業、運輸業では前年比増加しています。

仕入価格や一般経費の増加が続く増々厳しい収益環境のなか、賃上げを行おうと懸命です。

賃上げ実施予定企業の割合（従業員数別）

回答企業数：636社

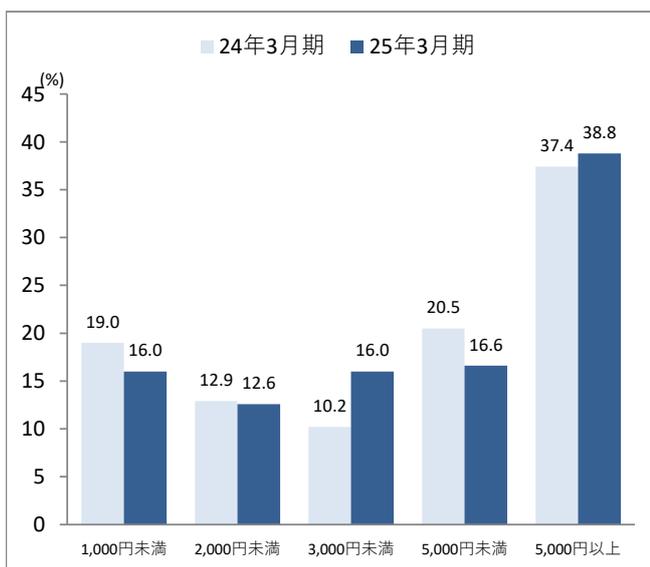


従業員数別で賃上げを実施するのは、親族経営の色合いが強い4人以下が33.5%と低く、従業員10人超の企業では70%を上回る賃上げ実施率となりました。

ベースアップ、定期昇給ともに「5,000円」以上が最も多く、人員確保や流出防止に向け、思い切った賃上げを実施しようとしています。

ベースアップ予定額

有効回答数：342社



定期昇給予定額

有効回答数：336社

